

「恵みの時に聖さを求める」
(ペテロの手紙第一1章10節～16節)

牧師：原 雅幸

序)「ここにお兄ちゃんたちが入っているから」

- ・人工心臓弁の移植を受け、元気になった子どもたちはどう生きるのか。
- ・私たちは「死を待つばかりのたましい」から、救い出された者たち。

1) ペテロの賛美：未来から過去へ

- ・ペテロは未来の希望から始め、試練に直面している現在へと賛美を進めてきた。そして10節から現在よりも前へと思いを向ける。
- ・預言者たちの活動：預言書のことばは、神懸かった恍惚状態で、筆が勝手に動いたのではない。預言者とその弟子たちが、律法(モーセ五書)を思い巡らす中で、神から与えられたことば・幻を探求し、聖霊(キリストの御霊)の導きの中で書物にしたもの。
- ・預言のことばに助けられ、私たちはキリストの救いの意味と力、その広がりとも未来を知ることができる。
- ・この預言者たちによる長い準備期間を経て「そして彼らが調べたことが今や(12節)」実現している。➡「恵みの時代(時)」の到来



2) 御使いたちもはっきりと見たいこと：私たちの喜び

- ・神の救いを受け取った人が、どんな生き方をするのかを、御使いたちは身を乗り出すようにして見守っている。
- ・今、すべての人に差し出されている福音は、決して当たり前ではない。

3) 幕は上がった！生き方の指針は13節に！

- ・「心を引き締め」…心(知性の座)の帯を締め(たすき掛け)て身軽に！
- ・「身を慎み」…素面であること。自分が何者か、今がどんな時か忘れない。
- ・「ひたすら(めいっばい)待ち望め」…「期待する」+「よく考える」…何がもらえるのかがわかっているなら、それに合わせて行動を変える。
- ・「聖なる神と共に生きる」永遠が待っているなら、「聖さ」を身に着けていくのがふさわしい準備である。自分を神としない、刹那的にならない、苦難の後に栄光が来ることを忘れず、自棄にならないこと。

結)「イエス・キリストが現れるとき」とは？

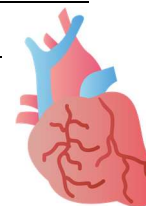
- ・再臨によって、私たちのたましいの救いは完成する。
- ・「イエス・キリストが現れるとき」=「イエス・キリストが啓示される(ベールが外される)ことによって」➡この地上で経験できることもある。

名前(_____)

◆お話を聞きながら、答えを考えましょう。

① もし、あなたが、心臓の病気で運動もできず、寝たきりだったとしたら、どんな気持ちになるでしょう。

② もし、その心臓の病気を治す道具を作ってくれた人がいて、心臓にとりつける手術をして、元気になったら、どんな生活をするでしょうか。



③ 旧約聖書の預言が実現した今の時代のことを、何と言いますか。



④ いつ、私たちは「イエス・キリストが現れる」のを経験できますか。

◆お話を聞いた後で、考えましょう。

* あなたの心は、今、ゆるんでいますか。引き締まっていますか。どうしてそう思いますか。

* あなたの生活の中で、どこが「聖くない」と思いますか。

～教会クイズ(教理問答)～

来週はおやすみです！(礼拝と分級はありますよ！)

